

課題

【国語】主語を捉える力を身に付けたい

手立て

ゴールが明確な言語活動を設定し主体的な学びを創出する
～『竹取物語』を小学校2年生に向けリライトしよう～

具体例

POINT① 見いだす 学習のゴールを知り、見通しをもつ

○見通しをもたせる

- ・既習の『竹取物語』を小学校2年生にも分かりやすいように現代語訳し、絵本を作る」というゴールに向け、単元の見通しをもたせる。
- ・学習計画と本単元で身に付けたい力（主述の関係を捉える）を意識させる。

課題意識をもたせる

・古文には、しばしば主語が省略されていることがある。小学校2年生にも分かりやすいように現代語訳するには「誰（何）が」をはっきり記述することが大切である。そのために、主語についての知識を深めることが必要となる。

学習目標を生徒に意識させることで、確かな力を身に付けさせることができます。また、学習計画を活用することで主体的な学びに結び付けます。

POINT② 自分で取り組む・広げ深める 解決の見通しをもつ

○「主語の役割」「主述の関係」について理解を深める

- ・原文は必ずしも直訳する必要はなく、小学校2年生でも「だれがどうした」「なにがどんなだ」などがはっきり分かるように訳を工夫することを意識させる。
- ・様々な絵本を参考に、検討させる。
- ・主語をつくる助詞について理解を深める。

【原文】
今は昔、竹取の翁といふ者ありけり。
とよばれている人が
翁は
野山にまじりて竹を取りつつ、
よろづのことに使ひけり。
名をば、さぬきの造となむいひける。
検討①翁は名前を・・・
②翁の名前は・・・

POINT③ まとめあげる 自分の言葉でまとめを書く

○学習活動を通してどのような力を身に付けることができたか、自分の言葉で書く

- ・できた絵本を実際に読み聞かせる（オンライン会議システムの活用）。
- ・学習目標に照らして、「何ができるようになったか」「何が身に付いたか」について振り返り、自分の言葉でまとめあげる。

次につなげる振り返りをする

- ・学習の振り返りは、単元の途中でも行い、「粘り強さ」「自己の学習の調整」を見取り、そのことを通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

『竹取物語』以外の様々な古文を活用することも考えられます。また、日本語の特徴として、主語を省略した方がよい場合もありますが、それはどのような時か、ということについても考えさせます。